

# イノシシ捕獲ハンドブック —箱わな編—



静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター

イノシシシカ研究チーム

2016年3月版

# 目次

第1章	どんなイノシシを獲るべきか	4
1.1	イノシシの殖え方 . . . . .	4
1.2	イノシシの減り方 (死に方) . . . . .	4
1.3	どんなイノシシを優先して獲るべきか . . . . .	5
第2章	どんな箱わなを使うか	6
2.1	作動方式 . . . . .	6
2.2	長さ (奥行き) . . . . .	7
2.3	入り口の高さ . . . . .	7
2.4	扉の数 . . . . .	8
2.5	蹴り糸式の場合のトリガー (糸) の高さ . . . . .	9
第3章	箱わなの管理	10
3.1	餌の種類 . . . . .	10
3.2	餌の設置 . . . . .	11
3.3	餌の交換頻度 . . . . .	11
3.4	獲り逃し個体の捕獲 . . . . .	12
3.5	自動撮影カメラの利用 . . . . .	13
第4章	イノシシの止めさし	14
4.1	これまで一般的に行われてきた止めさし方法 . . . . .	14
4.2	新しい止めさし方法 . . . . .	16

## このハンドブックのねらい

野生鳥獣による農林業被害は全国的に増加しており、平成 20 年以降 200 億円の規模となっています<sup>\*1</sup>。被害の拡大は静岡県も例外ではなく、平成 25 年度の被害額は約 3 億 8,000 万円にのぼります (静岡県農山村共生課調べ)。中でもイノシシによる被害は最も多く (1 億 5,000 万円)、県内で農業を営む際にはほとんどの地域で何らかのイノシシ対策を強いられるのが現状です。イノシシによる被害への対策は、(1) 農地へのイノシシの侵入を防ぐ「柵の設置」と、(2) 農地周辺のイノシシの個体数を減らす「捕獲」、の 2 つが大きな柱となります。

捕獲に際しては、ただイノシシを捕まえば良いというわけではなく、農地に被害を与えているイノシシを獲ることと、成獣を獲ることが重要です (自然環境研究センター 2014)。イノシシは、被害を与える個体と、農地に近づかない個体が明確に分かれていると言われており (本田他 2008)、里に出て来ない山奥のイノシシを獲っても被害対策への効果は望めません。したがって、農地のそばで捕獲するのが最も効果的であり、被害を受けている農家が自分で捕獲するのが、わなの管理などの点でもっとも好ましい捕獲方法になります。また、農地という人の出入りのある場所での捕獲である点を考えると、わなの場所が明確にわかり、イノシシがわなにかかった際に周囲の安全が確保しやすい「箱わな」が適しています。

これらの条件を鑑みると、(1) 被害を受けている農家自身が、(2) 箱わなで、(3) 成獣を、(4) 安全に獲る技術が必要となります。本ハンドブックは、これまでイノシシの捕獲をしたことがない、捕獲の経験がまだ少ない農家の

---

<sup>\*1</sup> 農水省 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/>

---

方を読み手として想定しています。静岡県が行ったこれまでの研究成果から分かったことを活用して、よりたくさんイノシシ成獣を捕まえるためにはどうしたらよいか、参考にしていただくことを目標としています。

くくりわな等を含むイノシシの捕獲方法全般や、わなを仕掛ける場所の選択などについては、本ハンドブックでは扱いません。これらの情報については、香川県の環境森林部みどり保全課が公表している「イノシシ捕獲技術プログラム (香川県 2013)」が大変よくできていますので、あわせてご参照ください \*2。

---

\*2 香川県環境森林部みどり保全課「初心者でも賢いイノシシを上手に捕獲できる! イノシシ捕獲技術プログラムを作成しました」

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/data/1306/130610a.htm>

## 第1章

# どんなイノシシを獲るべきか

### 1.1 イノシシの殖え方

イノシシは1回の出産で複数の子を産むため、比較的増えやすい動物と言われていますが、その殖え方と死に方にはいくつか特徴があります(図1)。栄養状態によりますが、平均的なメスの最初の出産は2歳の春からで、2歳では8割以上の個体が妊娠し、初産は子の数が若干少なく、平均2.5頭の子を産みます。3歳以降は9割以上のメスが妊娠し、平均4.5頭の子を産みます\*1(辻・横山2014)。

### 1.2 イノシシの減り方(死に方)

イノシシは、もともと子の死亡率が高く、1歳になるまでに半数が死に、2歳までの死亡率は84%程度と言われていています(Jeziarski 1977)。2歳以降になると死亡率は低くなり、幼獣に比べるとかなり死にくく、メスは毎年繁殖を繰り返すことになります。イノシシは「生き残って大人になるのは難

---

\*1 一部では、最近のイノシシは栄養が良いから、ブタと血が混じっているから(イノブタだから)子供を10頭ぐらい産んでいると言われることがありますが、そういった事実はありません。イノシシは複数の姉妹が共同して子を育てる母系社会をつくりますので、複数の母親の子が集まって10頭ぐらいの子の集団ができることがあります。また、1年で2回繁殖している可能性についても、子が全滅してしまった場合に2回目の繁殖を行う可能性がありますが、健康な子を年2回産んで育てることはありません。

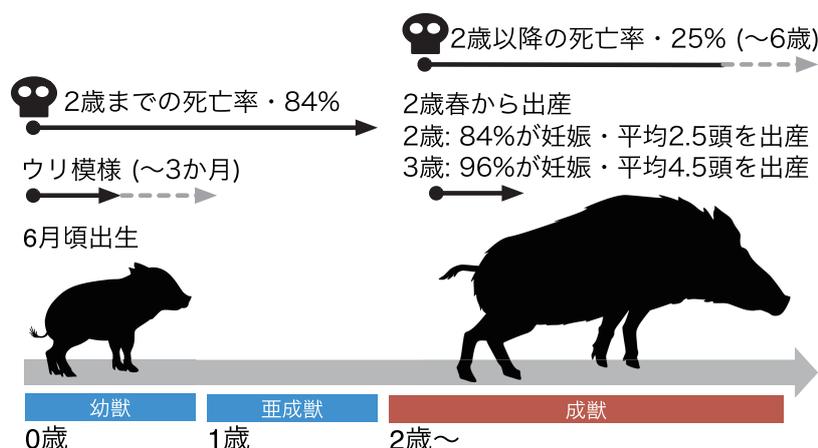


図1 イノシシの生活環 (出生と死亡)

しいが、うまく大人になれた個体はおおむね5-6歳ぐらいまで生きて繁殖を繰り返す」動物であると考えると分かりやすいかと思います。

### 1.3 どんなイノシシを優先して獲るべきか

イノシシの殖え方・減り方を考えると、**イノシシが増えるのを抑えるために重要なのは成獣 (できれば成獣メス) を獲ること**です。幼獣は栄養状態の悪化や寒さで死にやすいため、捕獲して数を減らすよりは、**農作物を食べられないようにすること**と、耕作放棄地や下草の茂った集落近くの藪などを減らして**安全な<sup>ひそ</sup>潜み場を少なくすること**が重要です。

イノシシ10頭を捕獲できたとしても、成獣10頭の場合と幼獣10頭の場合では翌年のイノシシの数に与える影響がまったく異なります。被害対策でイノシシを捕獲する場合は、自分 (または自分の地域) がどんなイノシシを獲っているのかについて把握することが重要です。幼獣と成獣の見分けに「ウリ模様 (背中の縞模様)」があるかどうかを目安にしていることがありますが、早い個体では3か月齢で模様が消え始めるため、この見分け方はあまり意味がありません。経験豊かな方は、体の大きさや肌の状態によっておよその年齢が分かるようになりますので、可能であれば、幼獣 (その年生まれで1歳未満)、亜成獣 (1歳以上だが、まだ繁殖できない)、成獣 (繁殖できる) の区別で、オス・メスを記録しておきましょう。

## 第2章

# どんな箱わなを使うか

一口に「箱わな」といっても様々なタイプがあります。購入する場合、近くの鉄工所などに製作を依頼する場合、自分で作成する場合など、入手方法も様々です。ここではどんな部分に着目して使う箱わなの形状を決めるべきか考えてみます。

### 2.1 作動方式

一般的に用いられている箱わなの作動方式には、「蹴<sup>け</sup>り糸式」「踏み板式」「回し棒式」の3つがあります(図2)。どの方式でもイノシシは獲れますが、成獣を捕獲するためには、わなの扉が閉まるきっかけとなる「トリガー」の感度や位置を調整することが必要です。踏み板式と回し棒式はトリガーの位置を変更することが難しいため、状況に応じてトリガーの位置と感度を変更することが比較的容易な蹴<sup>け</sup>り糸式の箱わながおすすめです。

数は少ないですが、このほかにも餌が引かれると作動する「吊り餌式」や、赤外線センサーやコンピュータを使った ICT 作動方式<sup>\*1</sup>の箱わななどがあります。

---

<sup>\*1</sup> Information and Communication Technology: 情報通信技術。センサーやカメラを使い、携帯電話やインターネット回線を利用して箱わなの情報を処理し捕獲を行う装置のこと。



図2 市販の箱わなに多くみられる3つの作動方式

(左) 蹴り糸式は横に張ったワイヤーが引かれると扉が落ちる。

(中) 踏み板式は床に設置された板状のスイッチが踏まれると作動する。

(右) 回し棒式は中央に設置された柱に付いた横棒が回されると作動する

## 2.2 長さ (奥行き)

イノシシ成獣の体長 (鼻先から尻尾を含まない<sup>でん</sup>臀部までの長さ) は平均 130cm と言われています (Kanzaki 1990)。踏み板式を除く多くの作動方式では、イノシシの鼻や頭部がトリガーに感知されることが想定されています。そのため、**成獣の捕獲にはトリガーから扉までの距離が 130cm 以上**ないと、作動時に扉がイノシシの尻や腰に当たり逃げられることがあります (図 3)。よって、トリガーが中央に固定の箱わなは、260cm の長さが必要で、トリガーを片側 (奥側) に偏らせて設置する場合も、餌を設置するスペースを考えると 200cm 程度の長さが適しています。農家でよく利用される軽トラックの荷台が約 190cm であるため、荷台に載るよう 180cm の箱わなを買う方がいますが、成獣の捕獲を考えると 180cm の箱わなは小さすぎます。

## 2.3 入り口の高さ

大型のイノシシでは背中が一番高いところで 70cm に達するほどの個体もいます。

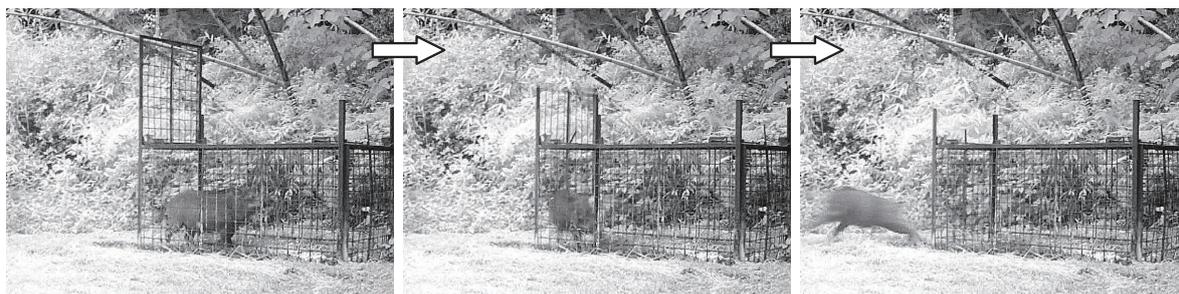


図3 箱わなでの捕獲失敗例

(左) 蹴り糸が扉から130cmより近い位置に仕掛けられており体が完全に入りきらないうちにわなが作動。(中) 扉がイノシシの腰に当たる。(右) そのまま体をひるがえし逃走

ほとんどの箱わなは、高さが80cm以上ありますが、扉の固定方法によって実際に運用する際の間口が小さくなることがあります(図4)。イノシシは背中が当たると警戒して箱わな内へ入らなくなることがあります。イノシシの体高が80cmを超えることはほとんどありませんので、扉を動作可能な状態に固定した際に間口が80cmほど確保できる箱わなを利用してください。



図4 箱わなの入り口の高さが低く、背中がひっかかって警戒する大型のイノシシ

なお、入り口の横幅に関しては、広い方が入りやすいという情報もありますが、今の所よくわかっていません。

## 2.4 扉の数

多くの箱わなは長方体をしており、扉が1つのものは片扉式、2つのものは両扉式りょうとびらと呼ばれます(図5)。両扉式は内部が行き止まりになっていないため、警戒せずにわなに入ると言われていますが、実際には両扉式かたとびらに対

しても片扉式と同じように警戒行動が見られるため、両扉式にこだわる必要はありません。

前述のように、扉からトリガーまでの距離は 130cm 以上必要ですので、両扉式は大きくなりがちです。移動や設置面積を考えると片扉式の方が扱いやすいでしょう。しかし、片扉式のわなは内部の管理がしにくくなりますので、裏側が開く構造のものか、両扉式を片方の扉を閉じて使うのがおすすめです。



図5 両扉式の箱わな

## 2.5 蹴り糸式の場合のトリガー (糸) の高さ

イノシシが親子で箱わなに来た場合、必ず幼獣が先にわなに入ります (図 6)。県内の調査では、幼獣は体全体がわなに入るまでの平均時間は 106 秒だったのに対し、成獣は 1261 秒 (約 21 分) かかりました。このため、成獣を捕獲するには、幼獣が箱わなに入っても扉が落ちないことが必要です。蹴り糸式のわなの場合、高さ 40cm にトリガーを設置することで、幼獣に反応せず成獣が入った時に扉を落とすことができます (松田他 2008)。

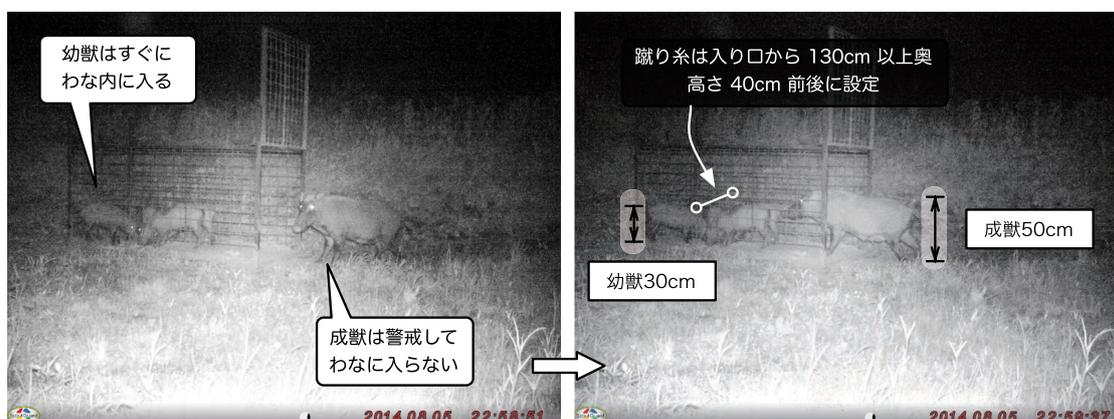


図6 箱わな周辺に現れたイノシシの群れ

## 第3章

# 箱わなの管理

### 3.1 餌の種類

イノシシの箱わな捕獲では米ぬか(粉餌)が広く用いられています。また、補助的にその時期に手に入るくず野菜(固形餌)が併用されることが多いです。箱わな内に設置する餌は嗜好性が高く、イノシシをわな内に長く留まらせることができる餌が理想的ですが、固形の餌は口にくわえて持ち出すことができるため、箱わな内に設置する餌としては好ましくありません(図7)。逆に、粉の餌は土や砂と混じるため、わなの外に多量に撒くと地面に残った餌に執着し、イノシシはわなに入ろうとしません。粉餌はわな内を重点的に撒き、外は撒きすぎないようにしてください。

イノシシの嗜好性については、和歌山県、香川県などで調査例がありますが、時期や地域によって大きく変化するため、自分で様々な餌を試してみる以外に確実な方法がないのが現状です。



図7 固形の餌を箱わなから持ち出す幼獣

## 3.2 餌の設置

粉餌をわな内に設置する際、餌がわなの外にはみ出さない様にするのが重要です (図 8)。餌のはみ出しがある場合、イノシシははみ出し部分に執着し、わな内へ入ろうとしません。また、はみ出し部分の餌を食べ終わっても、入り口からわな内に入ろうとせず、わなの横や後方から口先を伸ばして中の餌を食べようとする様子がみられました。箱わなに粉餌を追加する場合、わなの上からバケツなどで餌を落とし入れると餌が散らばりやすくなります。面倒でも扉側から柄杓<sup>ひしゃく</sup>などを使って、飛び散らないように餌を追加してください。

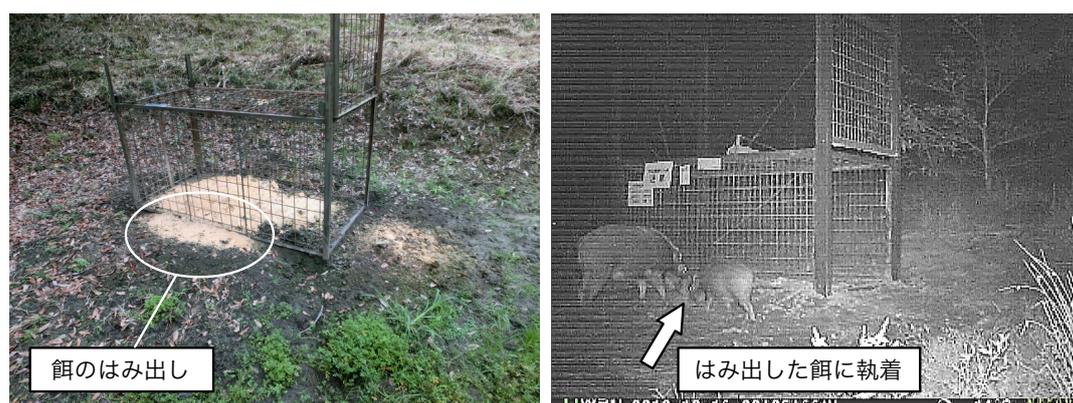


図 8 箱わなにはみ出して撒かれた餌 (米ぬか) と、それに執着してわな内に入ろうとしないイノシシ親子

## 3.3 餌の交換頻度

米ぬかなどは、放置すると腐敗が進み、酸味のある匂いがしてきます。人によっては、少し古くなった米ぬかの匂いがイノシシを誘引するのに良いと言う方もいます。しかし、新しい餌の追加から経過した日数と、イノシシおよびタヌキの出没頻度を調査したところ、タヌキは餌が4日ほど古くなってもあまり出没数は変わりませんが、イノシシは餌が新しければ新しいほど出没数が多いことが分かりました (図 9)。この結果をふまえると、餌の追加はできるだけ毎日行った方が良いでしょう。

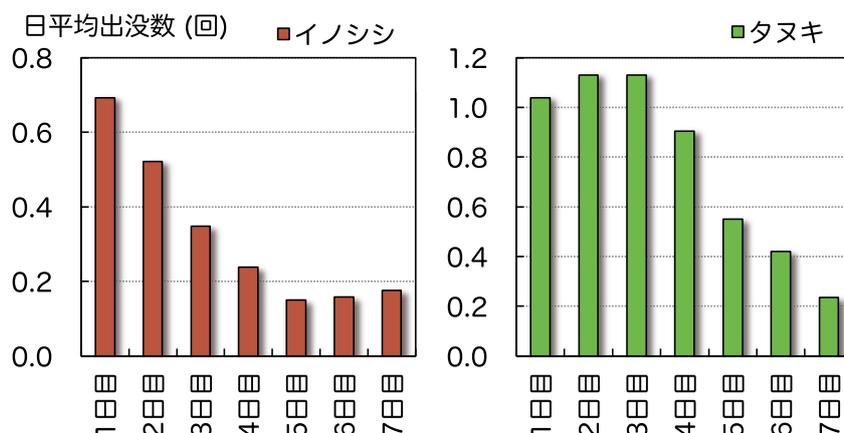


図9 新しい餌を追加してからの経過日数とイノシシ・タヌキの出没数

### 3.4 獲り逃し個体の捕獲

蹴り糸の高さをしっかり守ると、捕獲されるイノシシには1回の捕獲に1頭以上の成獣が含まれるようになります。しかし、イノシシは母系社会を形成することから、捕獲した成獣イノシシの姉妹を獲り逃している可能性があります(図10)。箱わなにしっかり馴れている場合、群れの一部が捕獲されても2-3日は同じわなに通うことが多いようです。捕獲は連続する可能性がありますので、捕獲できたからといって休まず、日を空けずにわなを仕掛けることで、取り逃がし個体を残さず捕獲できる可能性が上がります。

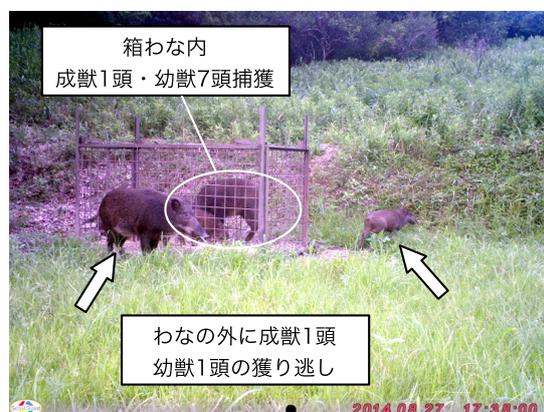


図10 わなに十分馴れた獲り逃し個体は、群れの一部が捕獲されても数日は同じわなに現れるので連続捕獲のチャンス

休まず、日を空けずにわなを仕掛けることで、取り逃がし個体を残さず捕獲できる可能性が上がります。

### 3.5 自動撮影カメラの利用

獲り逃し個体がいるかどうかを知るには、自動撮影カメラの併用が確実です。自動撮影カメラとは、赤外線センサーにより動物を感知し、写真または動画を記録する小型カメラです。本来は、海外の狩猟者が獲物を見つけるために使っている道具で、「トレイルカメラ」や「トロフィーカメラ」などとも呼ばれます。おおむね3万円前後で、通信販売などで手に入ります。

カメラを設置する場合は、わなの前2m・後ろ1m程度の範囲が映るように、わなから5mぐらい離れた所にカメラを配置します(図11)。この際、獣道を塞がないように注意しますが、できれば箱わなに興味を示さず獣道を通り過ぎる動物を確認するため、獣道をまたぐように設置するのがコツです。また、多くのカメラは人間の目には見えない赤外線を使って夜間撮影しますが、イノシシにはカメラの照明が見えますので、わなに入ろうとしているイノシシの前から撮影することは避けてください。

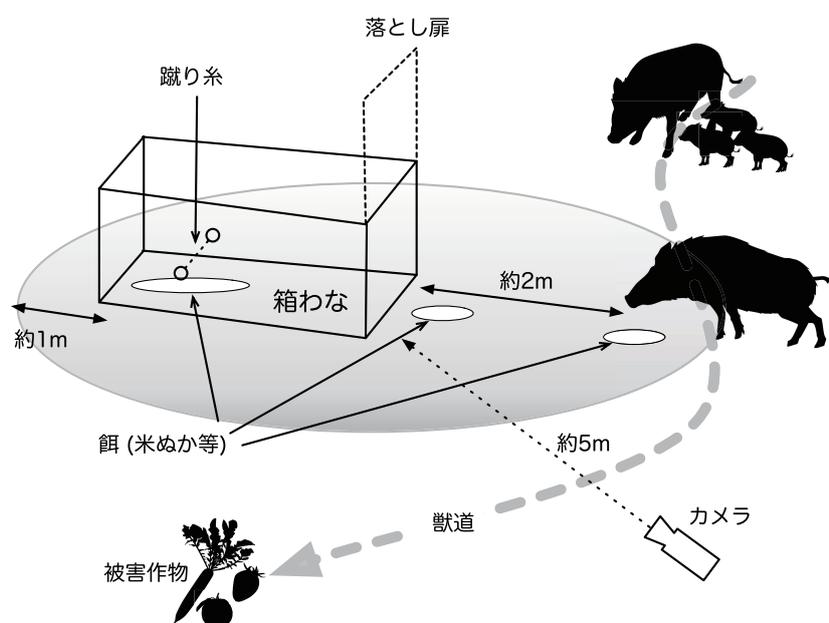


図11 箱わなへの出没動物を確認するために自動撮影カメラを仕掛ける場合の理想的な配置

## 第4章

# イノシシの止めさし

捕獲した動物にどどめをさすことを「<sup>と</sup>止めさし」と呼びます。

銃刀法の対象となる「銃」や「刃剣」は、所持するのに許可が必要となります。それ以外の刃物等の止めさし具についても、軽犯罪法第1条第2号により「正当な理由がなく携帯すること」は禁止されているため、捕獲時以外は携帯しないよう注意が必要です。

### 4.1 これまで一般的に行われてきた止めさし方法

#### 4.1.1 銃殺

散弾銃でどどめをさす方法です。以下のような特徴があります。

- 「第一種銃猟」免許と「銃所持」許可が必要
- 銃猟禁止区域など使用できない場所がある
- 離れたところからでも止めさすことができる
- 止めさしには威力が過大である（図12：雑誌4冊を貫通する威力）
- 貫通や跳弾の危険がある

散弾銃の弾

写真は1発弾 (スラッグ)



図 12 止めさしで使われる散弾銃 (スラッグ弾) の威力

#### 4.1.2 刺殺

刃物等 \*1で心臓や頸動脈などを刺してとどめをさす方法です。以下のような特徴があります。

- 免許、許可が不要
- 至近距離での作業が必要となり、特にくくりわなの場合、保定 (動きを固定) せずに行うことは困難で危険である (図 13)。



図 13 くくりわなにかかったイノシシ

\*1 所持・使用してよい刃物や注意点については、警視庁のウェブサイト「刃物の話」等をご参照ください。

<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/seian/hamono/hamono.htm>

## 4.2 新しい止めさし方法

### 4.2.1 空気銃による止めさし

プリチャージ式空気銃<sup>\*2</sup>でとどめをさす方法です(図14)。以下のような特徴があります。

- 「第一種銃猟」又は「第二種銃猟」の免許と「銃所持」の許可が必要
- 銃猟禁止区域など使用できない区域がある
- 弾の購入、使用、管理が容易である(火薬取締法の対象外)
- 安全性が高い
  1. 10 m離れたところから止めさすことができる
  2. 散弾銃に比べて威力が弱く、頭部以外では効かない。貫通もしないため、事故が起きにくい
- 経済的(散弾銃のスラッグ弾が1発約250円に対し、空気銃の弾は1発約8円)



プリチャージ式空気銃(左)と弾丸(右上: 径5.5mm)  
銃の後方にある筒状のものがエアタンク

雑誌1冊と5分の1冊の威力  
(スラッグ弾の3分の1以下)

図14 止めさしに使われるプリチャージ式空気銃とその威力

<sup>\*2</sup> エアータンクにより、空気を高圧で充填することで強力な威力を発揮できる空気銃。静岡県では、2012年4月から、これまで有害捕獲等では認められていなかった大型獣の止めさしへの使用が可能となっています。

空気銃を使った止めさしの場合、**頭(脳)に確実に弾丸を打ち込む**必要があります。特に正面から撃つ場合は、弾が頭蓋骨で滑って跳弾することがないように、なるべく垂直に弾が当たるよう撃ち下ろすようにして頭(脳)を射撃しましょう(図15)。



図15 98kgのオスイノシシを空気銃で止めさした時の弾の入射角度

#### 4.2.2 電撃器による止めさし

自動車やバイクなどに搭載される小型バッテリーを用いた電撃器により止めさしを行う方法です。千葉県猟友会が箱わなで捕獲したイノシシ用に考案したのですが、静岡県ではより安全性・確実性を高める改良を施し自作しています(図16および図17)。

以下のような特徴があります。

- 免許、許可が不要
- 経験が浅い者でも確実に止めることができる
- 材料は全てホームセンターや通信販売で購入可能
- 材料費が安価(約1万5千円)
- 血が流れないため、器具や周囲の汚れが少なく片付けも簡単
- 至近距離での作業が必要であり、保定(動きを固定)せずに行うことは器具の破損や事故に繋がるため危険

#### くくりわな用電撃器の材料

- バイク用12Vバッテリー
- DC/ACインバーター(100V、300W前後)
- バッテリー用ソケット
- 電極(プラス極・マイナス極)
  - － 塩ビ管・キャップVP16
  - － コンクリート針大

- 締め付け防止金具 4mm
- PP テストプラグ
- HI バルブソケット 13
- HI キャップ
- 中間スイッチ
- プラグ・コード

### 箱わな用電撃器の材料 (くくりわな用と非共通部分)

- 電極 (マイナス極・図 17)
  - タコ針等鉤状の針
  - 園芸用支柱
  - ホース

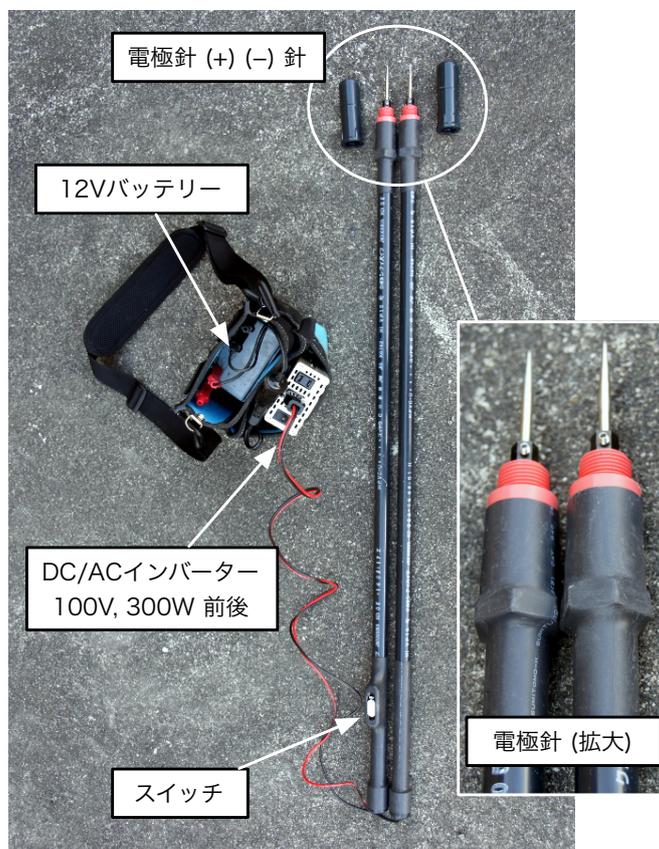


図 16 くくりわな用電撃器一式

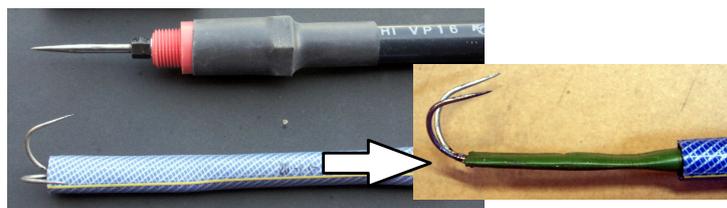


図 17 箱わな用電撃器の電撃針 (鉤状の針の根元はホースで覆われている)

### 4.2.3 電撃器による止めさし手順 (くくりわなの場合)

#### 手順 (1)

市販の保定具 (写真は (株) <sup>さんせい</sup> 三生製 <sup>あしじょう</sup> 「足錠」) を利用するなどして、ワイヤーを足や鼻 (鼻先に出されたものに咬みつくイノシシの習性を利用) に掛けます。

#### 手順 (2)

わなを繋いである木と反対側の立木に1度ロープを掛け、角度を変えてから別の木に縛り保定 (動けないよう固定) します (図 18)。このとき荷締め用のラチェット (写真は (株) オーエッチ工業 JSRU-9) を利用するとイノシシ側に引っ張られることなく安心・安全に作業できます。



図 18 くくりわなで捕獲したイノシシを電撃器で止めさす手順

## 手順 (3)

感電事故防止のため、ゴム手袋・ゴム長靴を必ず着用します (図 19)。



図 19 ゴム製 (絶縁素材) の手袋と長靴

## 手順 (4)

両電極を胸 (肩) を挟むように刺し込み、約 1 分間電気を流します。スイッチは刺す直前に入れ、足で払われないように注意して両極針を同時に一気に刺します。

## 手順 (5)

瞳孔が開く (まばたきできなくなる) か、呼吸が止まったことを確認したら直ちにスイッチを切り、保定具とわなを外します。

## 注意!!

決して無理をしないことが重要です。

くくりわなで捕獲したイノシシに接近して止めさす (刺殺・撲殺も含む) 場合には、直接突進されることがないように (1) **必ず斜面の上から**、(2) **立木を間に挟んで接近する**ことを原則とし、かつ (3) **保定具等で必ず動けないように固定してから行う**ことが重要です。また、経験が浅く自信がない場合や、わなの掛かり具合が十分でない場合には、無理をせず地域の銃猟者等に協力を求めましょう。

## 4.2.4 電撃器による止めさし手順 (箱わなの場合)

箱わなで捕獲したイノシシについても、保定することが重要です。保定方法については、長崎県のホームページをご参照ください \*3。予め保定具

\*3 長崎県農山村対策室「保定用具 (鼻錠・足錠) を使ったイノシシの止めさし方法」  
<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/shigoto-sangyo/nogyo/chojutaisaku/wildlife-choju/>

をラチェット (図 20 参照) に繋ぎ、近くの立木などに取り付けておくとスムーズに作業できます。

### 手順 (1)

ゴム手袋、ゴム長靴を装着し、保定したイノシシの体の一部へ電撃器の電極 (鉤状針の方) を突き刺します。

### 手順 (2)

ショートしたり感電事故が起きないように、必ずもう一方の電極端部を箱わなの中に挿し入れてからスイッチを ON にして、先に刺した鉤状針と胸 (心臓) を挟んだ位置に直針を突き刺し電気を流します。これ以降の作業は、くくりわな捕獲の場合の手順 (5) 以下と同じです。

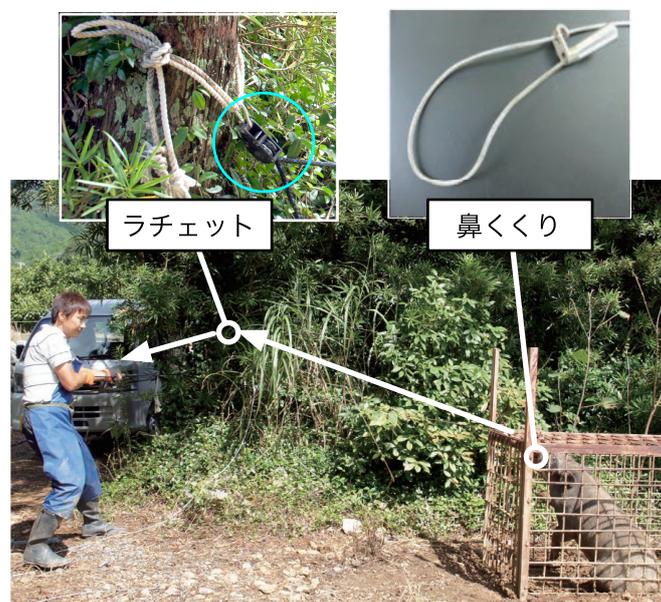


図 20 箱わなで捕獲したイノシシを「鼻くくり」と「ラチェット」により保定している様子

## 参考文献

- 本田剛・林雄一・佐藤喜和 (2008) 「林縁周辺で捕獲されたイノシシの環境選択」, 『哺乳類科学』, 第 48 巻, 第 1 号, 11–16 頁.
- Jeziarski, Włodzimierz (1977) “Longevity and mortality rate in a population of wild boar,” *Acta Theriologica*, Vol. 22–24, pp. 337–348.
- 香川県 (2013) 『イノシシ捕獲技術プログラム』, 香川県環境森林部みどり保全課, 香川, 第 1 版, 1–25 頁, URL : <http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/data/1306/130610a.htm>.
- Kanzaki, Nobuo (1990) “Sexual dimorphism of Japanese wild boars in Chugoku mountains,” *Journal of Mammal Science Japan*, Vol. 14, No. 2, pp. 97–103.
- 松田奈帆子・丸山哲也・仲谷淳・矢野幸宏・新部公亮 (2008) 「箱わなで大きなイノシシを選択的に捕獲する技術」, 『野生鳥獣研究紀要』, 第 35 巻, 7–10 頁.
- 自然環境研究センター (2014) 『イノシシの保護管理に関するレポート (平成 25 年度版)』, 環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室, 東京, 第 1 版, 1–12 頁.
- 辻知香・横山真弓 (2014) 「ニホンイノシシの妊娠率算出方法の開発」, 『兵庫ワイルドライフモノグラフ』, 第 6 巻, 71–83 頁.

## イノシシ捕獲ハンドブック—箱わな編—

本文書は、平成 25 年度～27 年度の静岡県新成長戦略研究事業「イノシシと戦う集落づくりと森林<sup>もり</sup>づくりに必要なシカ管理に関する研究」の成果として作成されました。

この文書は「Creative Commons 表示-改変禁止 4.0 国際」のライセンスで公開されています。内容を改変せず、出典を表示することで、営利・非営利に関わらず自由に配布および利用することができます。

編集: 静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター  
森林育成科 イノシシシカ研究チーム

所在地: 〒434-0016  
静岡県浜松市浜北区根堅 2542-8

電話: 053-583-3121

FAX: 053-583-1275

メール: FFPRI@pref.shizuoka.lg.jp

ウェブサイト: <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-850/>

発行年月: 平成 28 年 3 月版 (Typeset: 2016 年 2 月 24 日)